

令和6年度第3回江南市地域公共交通会議 会議録

- 日 時 令7年2月17日（月） 午後3時00分～午後3時50分
- 場 所 防災センター 3階 仮眠待機室・救護室
出席14名（平塚 康男、森 一浩（代理：森 稔）、小林 裕之、若林 亨修、高橋 正博、宮川 高彰、鈴木 浩示、藤原英智、磯部 友彦、武田 篤司、田實 直也（代理：幡野 創士）、岩崎 義宏、黒岩 義光、鵜飼 篤市）
欠席 2名（石屋 義道、山下 泰弘）
- 傍聴者数 6名
- 資料
 - 資料1 : 「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」の一部改正について
 - 資料2 : 「江南市における地域公共交通の基本的な考え方（改正版）」
 - 資料3 : 「江南市地域公共交通計画」の策定について

開会（午後 3 時 00 分）

○会長あいさつ

会 長 本日はお集まりいただきありがとうございます。2月の半ばとなりまして、いよいよ春になってきたかなというところですよ。春になりますと学生や社会人の新生活が始まります。公共交通においてもダイヤ改正を行うところが多くあります。それにあたってお願いしたいのは、春からの生活に使えるような交通機関であってほしいなというところがございます。公共交通はどこも厳しい状況ではありますが重要な仕組みでありますので、なくならないように、市民のために継続できたらと思います。よろしく願いいたします。

○報告事項

1. 「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」の一部改正について（資料 1・2）

会 長 それでは報告事項にうつらせていただきます。報告事項 1 の「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」の一部改正についての説明をお願いします。

事務局 資料 1、資料 2 に基づき説明

会 長 ありがとうございます。（並行登録の件とバス路線延伸の件は）地域公共交通会議の中でも議論されてきたところがございます。市の政策である「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」を変更するという事で、市からの報告ということですよ。何か意見等ございますか。

<意見なし>

会 長 よろしいでしょうか。あとで地域公共交通計画の話もありますけれども、あくまでも、現在、地域公共交通計画は作られておりませんので、江南市の政策として、未来のあるものにしていくということで、（ダイヤ改正とバス路線延伸のために）変更をするということでした。

会 長 ご意見等ないようですので、このように進めさせていただきます。ご了解をお願いします。続きまして、報告事項 2 「江南市地域公共交通計画の策定について」説明をお願いします。

○報告事項

2. 「江南市地域公共交通計画」の策定について（資料 3）

事務局 資料3に基づき説明

会長 ありがとうございます。地域公共交通計画を策定していく、そのためには、これまでの会議体（組織体）を法定協議会に変更していく必要があるとのこと。また、それに向けてスケジュールはこのように予定している、ということでした。あくまでも本日は、このように進めていくという報告ではありますが、来年度以降になりますと色々なことを決めていくという形になると思います。新しい形の会議に対してご意見いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員 地域公共交通計画や法定協議会に関しては、担当の方から説明いただいた通りですけれども、制度等について少し補足をさせていただきたいと思えます。国の方といたしましては、従前から公共交通を確保するために公共交通のバスやタクシーの制度を運用するために公共交通会議を開いていただいて、こちらの協議会で整ったものについては断続的に手続きや運用をしましょうということをやってきましたが、昨今、公共交通の維持が難しいと、会長のお話でもありましたが、そういったところにつきまして、市民の方で地域に最適な公共交通を作っていただきたいという考え方を持っております。また、まちづくりや観光などと密接に関わることを意識しながら地域公共交通計画を作り上げていただきたいと考えております。地域公共交通活性化再生法という、我々の間では略称として地域交通法と呼んでおりますけれども、地域交通法では、記載事項はこういったことを書き込んでくださいというようなことや、毎年計画がきちんと進んでいるかを見直してPDCAサイクルを回してくださいというようなことをお願いしつつ、地域交通計画の策定をお願いしているところです。これまで事務局からお話ありましたとおり、地域の方が公共交通をよくしていこう、維持していこうという動きに対して、計画に基づいた取り組みについては、国から一定のご支援を差し上げたいというところがございます。今まで江南市の方では「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」で公共交通の市の特徴を示していただいているところではありますが、改めて地域公共交通計画として形があるように変えていただくとともに、これを機会に見直すところは見直していただいて、新しい仕組みなどを取り入れて地域の皆さんにとってより良い交通にさせていただきたいと思えます。

会長 ありがとうございます。事務局からの方からも何か補足ございますか。

事務局 来年度に向けて、現行では2か年の計画で策定を予定しております。まずは現状の江南市の地域特性にあわせた交通モードがどのようなものが適切なかを諮っていくために、1年間かけて調査をしっかりとさせていただきたいと考えております。

2年目は、あがってきた調査の情報をもとに分析をかねまして、地域交通計画という形に変換して進めていきたいと考えております。

会長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。ご意見のほか、ご要望でも

構いません。

<意見なし>

会 長 特にないようですので、私から申し上げますと、まずひとつ、いろいろな交通モードがありますが、本当に頑張るところ（自治体）は、自転車も手段として考える自治体があります。駅へ乗り継ぐために関係してきます。他にも、交通モードを無料でやっているようなところもあります。そういう情報や調査を実施していくことが大事です。また、それぞれのご自身の考えも大事ですけれども、実態を把握していくということは大事です。もうひとつ、近隣市町村との関係性も大事になってくると思います。江南市には、いこまいC A Rの他に、大口町のコミュニティバスや扶桑町のチョイソコふそうも走っていて、地域はつながっているということがありますから、隣町との関係性、つまり、お互いに地域公共交通計画を作って、自分のまちのことだけではなく、近隣との関係構築も公共交通計画にまとめていくと。当然ながら交通に区切りはないので、（利用者は）どこまでも連続で行きたいです。そういうところを協調してやっていけるかが大切だと思います。また、実際に利用者へ支援するというのをどういう形で行うのがいいのか、ということを考える必要があります。民間事業者に公的資金をつぎこむというのは賛否両論ありますけれども、ただそれは民間事業者を助けると同時に市民を助ける、ということであると。そういう考えを、もっていかないといけないということです。地域にとって必要であることを確かめ合うということが大切になってきます。いろんな観点から交通の在り方を考えていかなければならないです。

これまでに江南市が何もやってこなかったというわけではなくて、全国に先駆けて、いこまいC A Rというすごい仕組みも作られていますし、路線が減る時代に路線を伸ばしていくというすごいことをやっている素晴らしいまちです。路線バスをしっかりと残すようにして、そしてタクシーも（活用して）と、うまくやっているというのが私の感想ですし、今後もさらにそれをきちんと地域公共交通計画に整理して進めていくという、自分への戒めもかねてのコメントでした。

最後に、事務局の方で準備を進めていただき、この公共交通会議が変わっていくということで、委員の皆さまにおいても、引き続き委員を務めていただく方がほとんどであると思いますので、来年から忙しくなると思いますが、よろしく願いいたします。以上で本日の報告事項はすべて終了しましたので、次第3の「その他」に進めさせていただきたいと思います。事務局の方から何かありましたらよろしくお願い致します。

○その他

事務局 はい。事務局から一点だけ訂正させていただきます。本日冒頭の出席者の報告で、愛知県江南警察署交通課長の山下委員が遅れているということで申し上げましたが、先ほど欠席のご連絡をいただきましたので、出席者 14 名ということでご紹介させていただきます。よろしくお願ひします。

会 長 出席者の最終確認でございました。他に何かよろしいでしょうか。

委 員 質問で、資料 2 の 1 ページの最初のところに、「財政投入は年間約 6,000 万」という記載がありますが、多いのか少ないのかわからないので、妥当なのかどうか知りたいです。二点目は、1 ページ下の平成 25 年度市民アンケート調査のところで、バスの満足度が「わからない」が 41%、「不満」が 34%で、(満足ではない割合が)合計して 75%になると思います。私から見まして、そんなにも(江南市の交通への満足度が)悪いのかなという想いもあるので、この辺りを(市としては)どう考えてみえるのかお聞きしたいです。三点目に、同じく 1 ページ下段の方に「交通空白がないのはおかしい」との記載がありますが、そういう話がでたということなのか、聞きたいと思います。

会 長 ありがとうございます。まず一つ目が、財政投入の金額についての質問。二つ目が市民アンケートの満足度についての質問。三つ目が交通空白についての質問でございました。いずれの三つとも、交通計画の中でもすごく重要な案件だと思います。今言える範囲で構いませんので、事務局からご説明、又はご見解をお願いします。

事務局 まず、最初に質問いただきました「財政投入は年間約 6,000 万円」の記載についてですが、「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」を作成した当時の情報となっております。現在は、江南市として公共交通の補助金など、もう少し大きな金額を投入している状況です。ただ、近隣自治体と比べますと、大きすぎる額を投入しているというわけではなく、かなり堅実に、必要なところに必要なだけ、ということで、できる限り皆さんの利便性を損なわないところでの財政投入と公共交通の提供というのが進められているのではと考えています。

また、二点目にご質問いただきました平成 25 年度の市民アンケート調査の結果というところの満足度についてですが、実際、昨年度に実施しております市民満足度調査でも、公共交通の満足度というのが伸び悩んでいるというのは実態としてございます。どうしても市民の皆さまの満足度をすべて満たすのが難しいのが公共交通かなと考えています。上を目指すと、自宅から目的地まで、かつ安い公共交通で、すぐに行けるというのを(利用者としては)望まれる傾向であると考えますと、(満足度は伸ばしていきたいですが)すべてを満たす公共交通というのは難しいと、事務局としてもジレンマを感じているところであります。

最後に、三点目の「交通空白がないのはおかしい」という記載についてのご質問ですが、「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」を作成する当時、「地域公共交通を語る会」というのを開催しておりました。その中で、市民の方からいただいたご意見になります。江南市として、路線バスが走っている地域とそれを補完する形で、市内全域をいこまいC A Rが走ることで、エリアとしての交通空白地域はないと考えているのが現状です。ただし、いこまいC A Rもすべての時間帯に走っているかといわれると、そういうわけではありません。いこまいC A Rが走っていない時間帯については民間の一般タクシーにまかさせていただくことで、江南市の中での公共交通の提供は損なわないと考えています。今後は、バスやタクシー、いこまいC A Rも含めてですけれども、今後より良いものにできるよう、これからの2か年で地域公共交通計画をしっかりと作って行って、江南市の地域特性にあった交通網を構築していきたいと考えておりますので、よろしく願います。

会 長 ありがとうございます。他に質問よろしいですか。

委 員 もう一ついいですか。資料2の11ページですが、「2. 新たなサービスについて」の「財政上の工夫」の例で、スクールバスや企業従業員送迎バスの記載がありますが、今どの程度この辺が前向きに検討されているのか、方向性があれば教えていただきたいと思います。財政工夫はいろいろとあったほうがいいと思うのですが、実際はなかなか（送迎バスなどを学校や企業に）お願いするのは難しいのではと想定の質問です。また、13ページに「地域の魅力を活かしたまちづくり」といった、市のブランドや魅力向上といった内容が書いてあるのですが、市の魅力とは何かと言われてもすぐには思いつかないというのがあります。具体的に伺いますか、わかる範囲でどういう魅力があるのか教えていただければ、我々も地域に帰って、もっと江南という地域に対してできることがあるのではないかなと思定の質問です。願います。

会 長 ありがとうございます。財政上の工夫や、企業や学校と実際にどういったやりとりをされているのかといった質問と、市のブランド力についての質問でした。事務局願います。

事務局 まず、財政上の工夫についての検討として、「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」策定当時は、今後に向けてスクールバスや企業送迎バス、ボランティアの方に車を用意してもらって輸送いただく、という方法があるのではと考えておりました。ですが、実際、スクールバスの運行によって、そこに乗っていた学生さんが乗るはずだった路線バスからスクールバスに乗り換えるということがあります。企業バスも同様ですが、本来乗ってもらえるはずだった路線バスの乗客の減少を招いたということがあります。考え方を策定した当時からいろいろと動きもあり、ボランティ

ア輸送につきましても、財政投入なくやっていただけるほど簡単なものでもないということもあり、なかなかこちらに関しても現状は進められていないというのが実情でございます。また、これから新たな地域公共交通計画を策定していくうえでのところになります、現状、地域公共交通会議検討部会の方でも新しい公共交通について北部地域をはじめとして検討を進めておりました、まずはそういったところから現状の路線バスやいこまいC A Rに準ずる公共交通を確保できないかと進めているところでございます。

また、二点目の質問の、市のブランド力や市の魅力の再発掘ということでございますが、まず一つは名古屋市との距離がブランド力ではないかと考えております。名古屋に通勤・通学している方にとっては、名古屋に近く、名鉄電車を使用するのが難しくない地域です。また、平坦な地域ですので、そういった移動のしやすさというのものもあるのではないかと思います。また、北部の方には、蘇南公園やフラワーパーク江南など自然に親しむ場所もあり、住みやすい地域でないかと思っております。暮らしやすいというところをできる限り全面に押し出して、暮らしやすさの一つとして、公共交通も市として提供していく、民間事業者とも協力しあって構築していくというのが今後の目指すべきところと考えております。

会 長 ありがとうございます。(回答について) よろしいでしょうか。

委 員 はい。

会 長 他にはよろしいでしょうか。

<意見なし>

委 員 最後に、参考情報としまして、予算的な話については、補助金もピンからキリまであります。具体的にどこというのは申し上げませんが、極端に(予算を)公共交通に使っているところもあります。ただ、そういう自治体というのは、今まで民間のタクシー事業者で頑張ってきたけれども、もう耐えられないということで市の方で面倒をみるということもあります。逆に、江南市でもそうですが、民間の事業者が頑張っているおかげで財政投入が当時の額ではありますが約6,000万円で済んでいる、ということもあるわけですね。そうだとすると、バス等を維持していかないと、かなりお金がかかってくるということがありえます。そういった点もご理解いただいたうえで、市として、どのくらいの交通サービスを期待するのか、どのような交通網がまちづくりの観点から必要なのか、ということを考えて、じゃあどのくらい予算を使えるのか、足りないとするとな他のところから補完するのかというのを考えるのが地域公共計画の部分でございますので、今後、皆さまと検討していければと思います。よろしくお願ひします。

会 長 ありがとうございます。他にご意見等がないようですので、事務局に進

行をお返しします。

事務局 会長様には、議事進行して頂きまして誠にありがとうございました。委員の皆様方におかれましては、慎重なご審議を賜り、誠にありがとうございました。以上をもちまして、会議を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

閉会（午後 3 時 50 分）